



SONY

2006年度

第3四半期 連結業績概要
(2006年12月31日に終了した3ヶ月間)

Sony Corporation Investor Relations

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1)ソニーの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向、(2)為替レート、特にソニーが極めて大きな売上または資産・負債を有する米ドル、ユーロまたはその他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入と急速な技術革新や、エレクトロニクス、ゲーム、映画分野および音楽ビジネスで顕著な主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争の中で、十分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス(ゲーム分野において新たに導入されたプラットフォームを含む)をソニーが設計・開発し続けていく能力、(4)技術開発や生産能力増強のために行う多額の投資を回収できること、(5)ソニーがエレクトロニクス分野で人員削減やその他のビジネス事業再編を成功させられること、(6)ソニーがエレクトロニクス、ゲーム、映画分野、その他および音楽ビジネスにおいてネットワーク戦略を成功させられること、映画分野および音楽ビジネスでインターネットやその他の技術開発を考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること、(7)ソニーが主にエレクトロニクス分野において研究開発や設備投資に十分な経営資源を適切に集中させられること、(8)生命保険など金融商品における顧客需要の変化、および金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネージメント遂行の成否、および(9)ソニーと他社との合併、提携の成否、などです。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

FY06.3Q 業績ハイライト&トピックス

業績ハイライト

連結売上高は、金融分野が減収となったものの、エレクトロニクス、映画およびゲーム分野の好調により前年同期比10% (LCベースでは7%) 増収となり、過去最高の売上高を記録。

連結営業利益は、エレクトロニクス分野で大幅な増益、映画分野でも損益が大きく改善したものの、プレイステーション®3 (PS3) 導入にともなうゲーム分野での損失計上、および金融分野での減益により、全体では前年同期比で15%減益。

トピックス

エレクトロニクス分野では、17%増収、営業利益も約2倍の増益、四半期ベースとして過去最高の売上げ、営業利益を記録。

液晶テレビ「ブラビア」の売上が好調に推移、当四半期のテレビ事業は営業黒字。



© SCEI

ゲーム分野では、2006年11月に日米でPS3の販売を開始し、約2ヶ月で生産出荷累計200万台を記録。これは、これまで導入してきたプラットフォームの中でも最速の立ち上げ。1月25日には、欧州等PAL市場向けにPS3の3月23日発売を発表。各地域で魅力的なコンテンツとともにプラットフォームが拡大中。

映画分野では、「ダ・ヴィンチ・コード」のDVDソフトや「007/カジノ・ロワイヤル」の劇場興行が大ヒット。



© 2006 Columbia Pictures Industries, Inc. All Rights Reserved.



ソニー・エリクソンは、前四半期に続き過去最高業績を更新、市場シェアも拡大し、四半期の売上高では全世界の携帯電話業界第3位のポジションを獲得。主に「サイバーショット」携帯電話、「ウォークマン®」携帯電話が業績に貢献。

FY06.3Q 連結業績

(億円)

	FY05.3Q	FY06.3Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
売上高および営業収入	23,751	26,077	+9.8%	+7%
営業利益	2,103	1,789	-14.9%	-34%
税引前利益	2,259	1,798	-20.4%	
持分法による投資利益(純額)	195	430	+120.5%	
当期純利益	1,689	1,599	-5.3%	
1株当り当期純利益(希薄化後)	161.60 円	152.49 円	-5.6%	
構造改革費用**	147	-3	-150	

為替変動による業績への影響額		平均レート	FY05.3Q	FY06.3Q
売上高および営業収入:	約 +577 億円	1 ドル	116 円	117 円
営業利益:	約 +399 億円	1 ユーロ	138 円	150 円

* LCベース: 円と現地通貨との間には為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)

** 構造改革費用は営業費用に含まれる

FY06.3Q セグメント情報および関連会社業績

(億円)

連結セグメント		FY05.3Q	FY06.3Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
エレクトロニクス	売上高	16,015	18,727	+16.9%	+14%
	営業利益	875	1,774	+102.8%	+68%
ゲーム	売上高	4,192	4,428	+5.6%	+3%
	営業利益(損失)	678	-542	-	-
映画	売上高	2,022	2,970	+46.8%	+46%
	営業利益(損失)	-4	262	-	-
金融	金融ビジネス収入	1,904	1,729	-9.2%	
	営業利益	470	255	-45.9%	
その他	売上高	1,227	993	-19.1%	
	営業利益	163	139	-14.9%	

* LCベース: 円と現地通貨との間を為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)

主要持分法適用会社		10/05 - 12/05	10/06 - 12/06	前年同期比
ソニー・エリクソン (百万ユーロ)	売上高	2,310	3,782	+64%
	税引前利益	206	502	+144%
ソニー-BMG (百万ドル)	売上高	1,464	1,441	-2%
	税引前利益	252	278	+10%

ソニー・エリクソンはエリクソン社、ソニー-BMGはベルテルスマン社との間で、ソニーがそれぞれの50%の株式を保有する持分法適用会社です

5

Sony Corporation Investor Relations

FY06 連結業績見通し

(億円)

	FY05	10月時点の見通し	FY06 見通し	10月時点比増減
売上高および営業収入	75,106	82,300	82,300	-
営業利益	2,264*	500**	600**	+20%
うち、構造改革費用	1,387	400	300	-25%
税引前利益	2,863	700	800	+14%
持分法投資利益(純額)	132	400	600	+50%
当期純利益	1,236	800	1,100	+38%
設備投資額	3,843	4,600	4,600	-
うち、半導体投資額	1,400	1,700	1,700	-
減価償却費***	3,818	4,100	4,100	-
研究開発費	5,318	5,500	5,500	-

為替レート	FY05 実績レート	FY06 下半期 前提レート	FY06.4Q 前提レート
1 ドル	112.3 円	114 円前後	117 円前後
1 ユーロ	136.3 円	145 円前後	153 円前後

* FY05の営業利益には厚生年金基金の代行返上益735億円が含まれる

** FY06の営業利益にはノートブックコンピュータ用電池パックの回収ならびに自主交換プログラムに関わる費用の引き当て512億円が含まれる

*** 減価償却費は、無形固定資産と繰延保険契約費の償却費を含む

6

Sony Corporation Investor Relations

FY06.3Q 構造改革進捗報告

	目標数値 (FY07末まで)	FY05 + FY06 YTD		
		FY05 実績	FY06 YTD 実績	実績
連結営業利益率 *	5%	3.9%	4.1%	-
エレクトロニクス営業利益率 *	4%	1.4%	6.6%	-
コスト削減(億円)	2,000	380	1,090	1,470
製造拠点統廃合	65のうち11	9	0	9
モデル数削減 **	-20%	Base Year	-20%	-20%
人員削減	10,000	5,700	4,900	10,600
資産売却(億円)	1,200	780	880	1,660

進捗状況は予定通り

✓ 目標達成

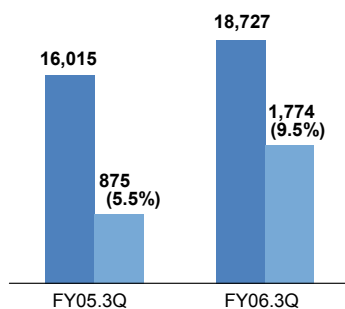
* 営業利益率: 営業利益率は構造改革費用、代行返上益とノートブックコンピュータ用電池パックの回収ならびに自主交換プログラムに関わる費用の引き当を除く

** モデル数削減: FY05(Base year)に対するFY06の削減比率

FY06.3Q エレクトロニクス

(億円)

売上高および営業利益



FY06.3Q業績

売上高: 16.9%増加(外部顧客向け売上:10%増加)

増収: 液晶テレビ「BRAVIA<ブラビア>」、デジタルカメラ「サイバーショット」

減収: 液晶リアプロジェクションテレビ、ブラウン管テレビ

営業利益: 899億円増加

(+)要因: 外部顧客向け売上増、為替

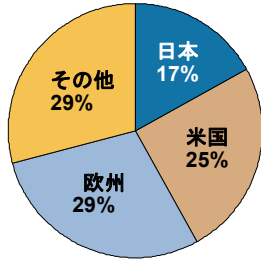
構造改革費用: 3億円戻し入れ(前年同期 146億円計上)

前年同期比 (LC)

売上高	+16.9%	+14%
営業利益	+102.8%	+68%

セグメント間取引を含む / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の(%)は営業利益率

FY06.3Q エレクトロニクス地域別売上



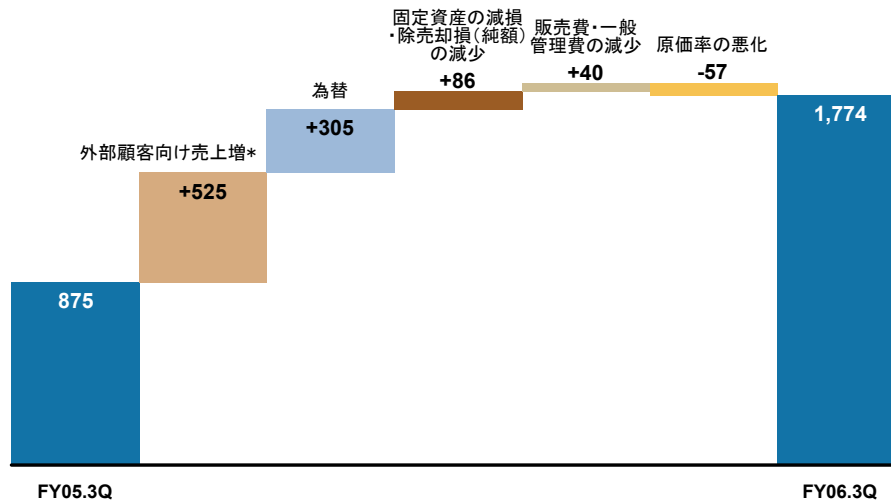
営業収入を除く
外部顧客に対する売上
16,212 億円 +10% (LC +7%)

- 日本: +8%**
 - ・ 増収: 携帯電話端末、イメージセンサー、液晶テレビ
 - ・ 減収: PC「バイオ」、放送機器
- 米国: +3% (LC +3%)**
 - ・ 増収: 液晶テレビ、PC「バイオ」
 - ・ 減収: 液晶リアプロジェクションテレビ、ブラウン管テレビ
- 欧州: +21% (LC +12%)**
 - ・ 増収: 液晶テレビ、PC「バイオ」
 - ・ 減収: ブラウン管テレビ
- その他: +9% (LC +7%)**
 - ・ 増収: 液晶テレビ、デジタルカメラ
 - ・ 減収: ブラウン管テレビ

円グラフは地域別売上高構成比(円ベース) / 営業収入を除く外部顧客に対する売上 / LC:現地通貨試算ベースの伸び率

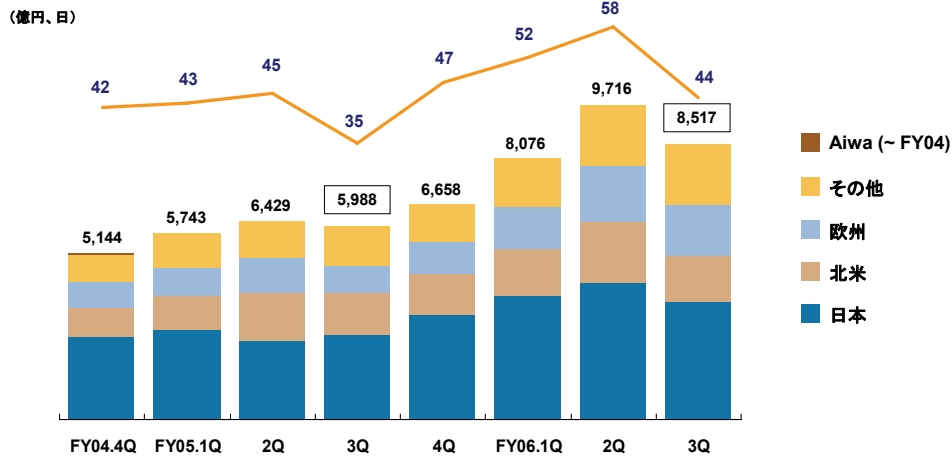
FY06.3Q エレクトロニクス営業利益増減要因

(億円)



* 外部顧客向け売上に対する粗利増

エレクトロニクス連結棚卸資産(地域別)



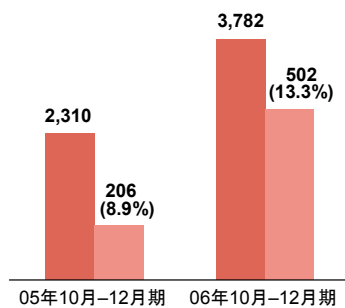
- ・ 8,517億円(前年同期末比 2,529億円の増加。2006年9月末比では、1,200億円の減少)
- ・ 主に、販売増加にともない液晶テレビの在庫が増加、およびPS3向け半導体の在庫が増加したことによる

棒グラフ：棚卸資産(億円単位)
折れ線グラフ：棚卸資産回転日数(期首期末平均棚卸資産÷期中平均日次売上)
FY05よりAIWA在庫は各地域に振り分けています。
FY05.1Qの在庫回転日数は、ビジネス別セグメント区分の変更に合わせて修正再表示されています。

ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ

(百万ユーロ)

売上高および税引前利益



前年同期比

売上高	+64%
税引前利益	+144%

持分法適用会社

06年10月-12月期業績

四半期ベースで過去最高業績を更新

- ・ 売上高は64%増の37億8,200万ユーロ、税引前利益は144%増加し5億200万ユーロと、ともに過去最高を更新。
- ・ 販売台数は前年同期比で61%増加し、市場シェアも拡大。
- ・ 主に、サイバーショット携帯(K800)、ウォークマン携帯(W810)が業績に貢献。

ソニーへの影響額:持分法による投資利益は336億円

ソニー持分への影響額

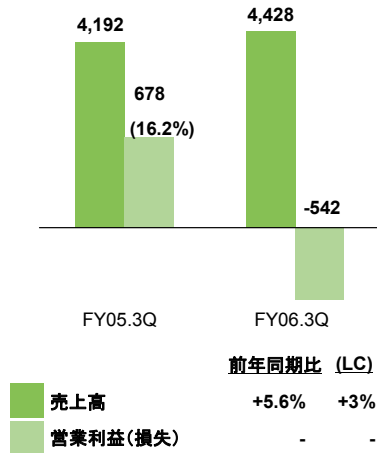
	05年10月-12月期	06年10月-12月期	前年同期比
当期純利益(百万ユーロ)	144	447	+210%
ソニー持分への影響額(億円)	98	336	+243%

税引前利益下の(%)は税引前利益率

FY06.3Q ゲーム

(億円)

売上高および営業利益(損失)



FY06.3Q業績

売上高:

- 主にPS3の発売により増収。

営業損益:

- 主にPS3の戦略的な価格設定での販売による損失が発生したことに加え、その他PS3プラットフォームの立ち上げ関連費用を計上したことにより悪化。

棚卸資産額:

- 1,032億円(前年同期末比横ばい)

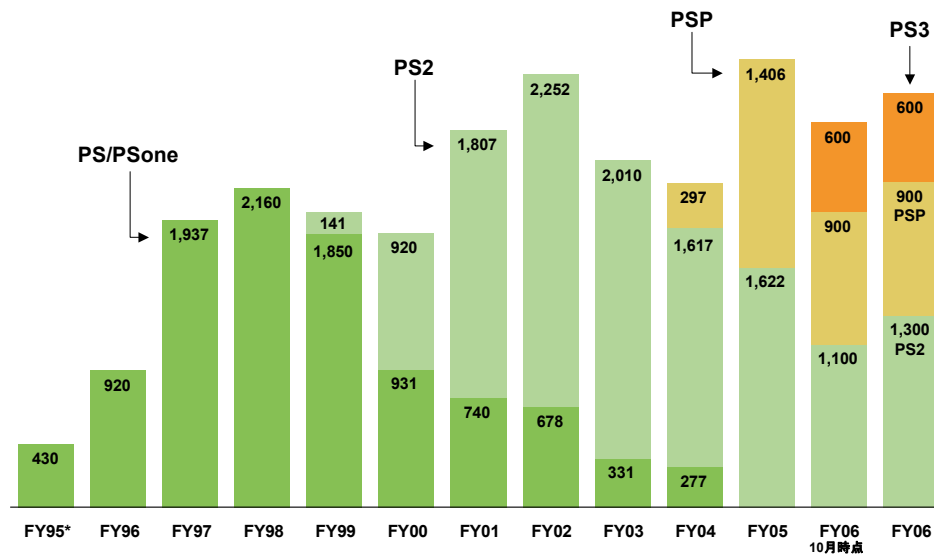
生産出荷台数

		FY05.3Q	FY06.3Q	前年同期比
ハード(万台)	PS2	536	411	-23%
	PSP	622	176	-72%
	PS3	-	184	-
ソフト(万本)	PS2	9,300	7,800	-16%
	PSP	1,710	2,120	+24%
	PS3	-	520	-

セグメント間取引を含む / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の (%) は営業利益率

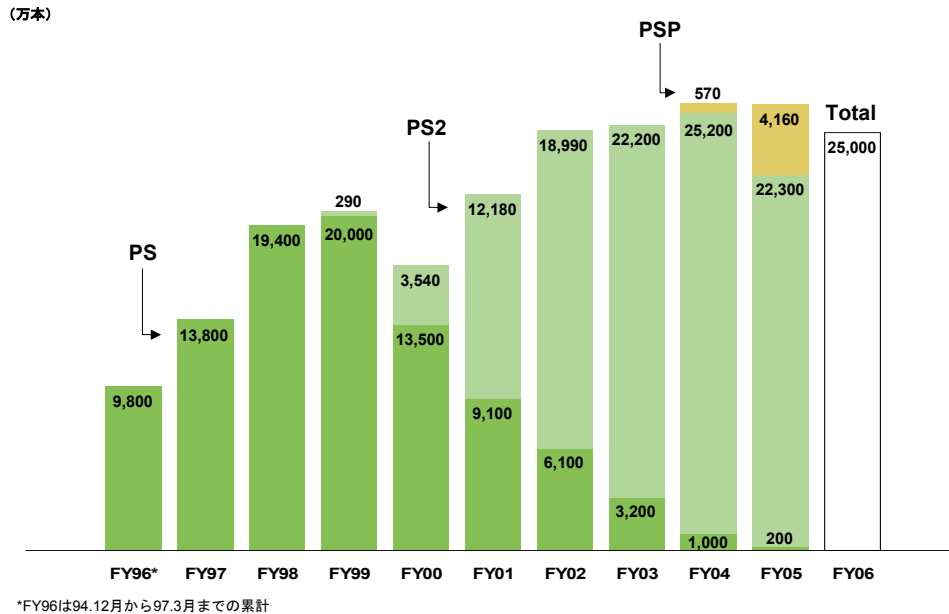
PlayStation ハード生産出荷台数&見通し

(万台)



*FY95は94.12月から96.3月までの累計

PlayStation ソフト生産出荷本数&見通し



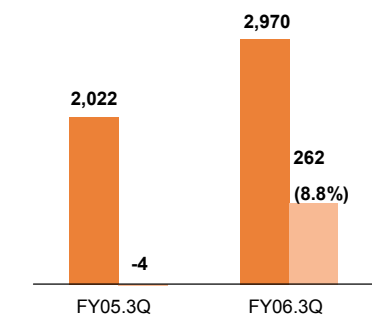
15

Sony Corporation Investor Relations

FY06.3Q 映画

(億円)

売上高および営業利益(損失)



前年同期比 (US\$)

売上高	+46.8%	+46%
営業利益(損失)	-	-

FY06.3Q業績

売上高: 47%増加、米ドルベースで46%増加

- 上半期に公開した「ダ・ヴィンチ・コード」、「Talladega Nights」、「もしも昨日が選べたら」などのDVD映画ソフトの売上が大幅に増加したことに加え、当四半期に公開した「007/カジノ・ロワイヤル」および「幸せのちから」が好調だったことによる。
- テレビ番組の売上も、「The King of Queens」のシンジケーション向け売上の計上などにより増収。

営業利益: 前年同期4億円の損失に対し、262億円の利益計上

- 映画作品のDVDソフトや劇場興行収入の売上が大変好調だったことによる。

セグメント間取引を含む / US\$: SPEの米ドルベースの伸び率 / 営業利益下の (%) は営業利益率

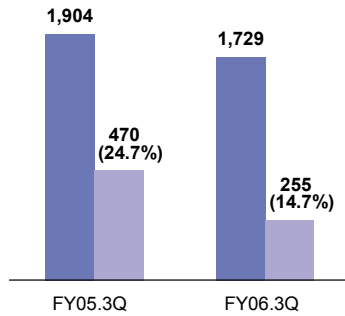
16

Sony Corporation Investor Relations

FY06.3Q 金融

(億円)

金融ビジネス収入および営業利益



前年同期比

金融ビジネス収入	-9.2%
営業利益	-45.9%

FY06.3Q業績

金融ビジネス収入:主にソニー生命の減収により、9%減収

- ソニー生命の収入:12%減少
(-)要因:主に、一般勘定および特別勘定の評価益が減少
(+)要因:保険料収入が増加

営業利益:主にソニー生命の減益により、46%減少

- ソニー生命の営業利益:46%減少
(-)要因:主に、一般勘定における転換社債の評価益などが減少
(+)要因:保険料収入が増加
- ソニー損保、ソニー銀行のビジネスは順調に推移

ソニー生命の業績

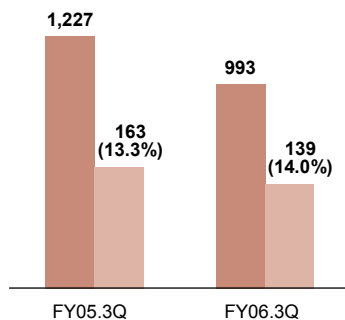
	FY05.3Q	FY06.3Q	前年同期比
収入 (億円)	1,672	1,475	-12%
営業利益 (億円)	480	259	-46%

セグメント間取引を含む / 営業利益下の (%) は営業利益率

FY06.3Q その他

(億円)

売上高および営業利益



前年同期比

売上高	-19.1%
営業利益	-14.9%

FY06.3Q業績

SMEIの音楽出版事業およびSMEJの業績を含む

売上高:前年同期比19%の減収

- 減収は主に、リテール事業が連結対象外となったこと、およびSMEJの減収などによる
- SMEJ
 - 前年同期に平井堅のシングルコレクションの大ヒットなどがあったことにより、当四半期の売上は前年同期比減少
 - 当四半期の売上貢献作品:CHEMISTRYの「ALL THE BEST」、ORANGE RANGEの「ORANGE RANGE」、およびポルノグラフィティの「m-CABI」

営業利益:15%減少の139億円

- ソネットエンタテインメント(株)は、光ファイバーサービスの加入者の増加にともなう収入の増加により増益となったものの、SMEJにおける売上減少、およびリテール事業が連結対象から外れた影響により、全体としては減益。

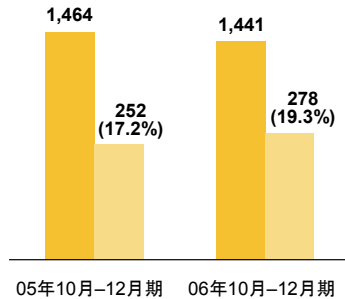
セグメント間取引を含む / 営業利益下の (%) は営業利益率

ソニーBMG・ミュージックエンタテインメント

持分法適用会社

(百万ドル)

売上高および税引前利益



06年10月-12月期業績

売上高は2%減少でも、税引前利益は10%増の2億7,800万米ドル

- 売上の減少: デジタル音楽配信売上が拡大した一方で、多くの音楽市場全体でCDの売上が引き続き縮小したため
- 当四半期の貢献作品: Il Divoの「Siempre」、コンピレーションアルバムの「NOW That's What I Call Music Vol. 23」、オアシスの「ストップ・ザ・クロックス」など
- 税引前利益増加: 間接費用および構造改革費用が低下したことや、主要レコード会社とともに進めていた訴訟に関する和解金を得たこと
- 税引前利益には、構造改革費用4,100万ドルが含まれる。構造改革費用は、前年同期比700万ドルの減少

ソニーへの影響額: 持分法による投資利益は131億円

ソニー持分への影響額

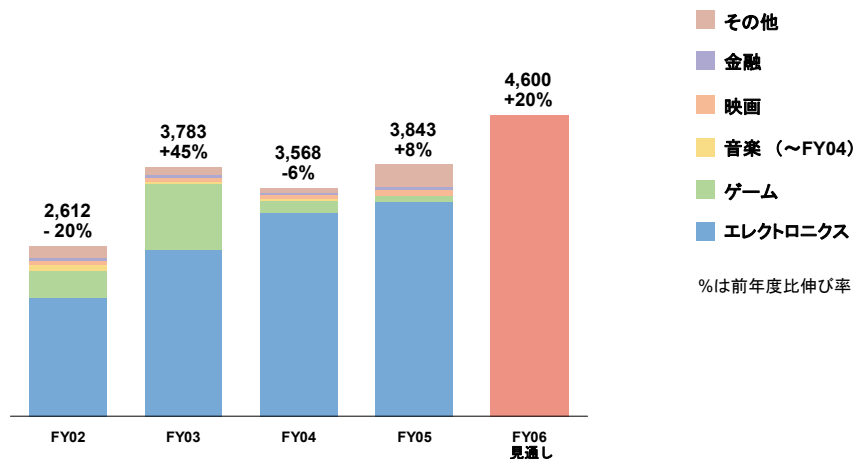
	05年10月-12月期	06年10月-12月期	前年同期比
当期純利益 (百万ドル)	178	225	+26%
ソニー持分への影響額 (億円)	103	131	+27%

	前年同期比
売上高	-1.6%
税引前利益	+10.3%

税引前利益下の (%) は税引前利益率

FY06 設備投資額見通し

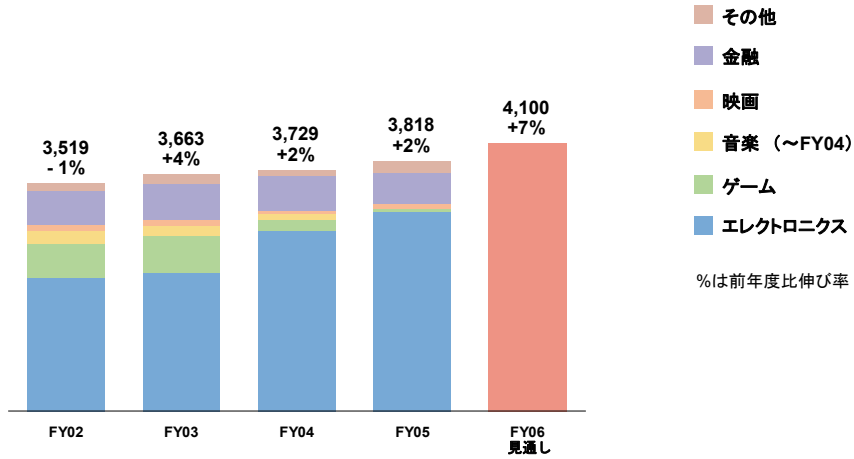
(億円)



- FY06設備投資額見通しのうち、半導体向けは1,700億円(前年度1,400億円)
- 7月時点の見通しから変更なし

FY06 減価償却費および償却費見通し

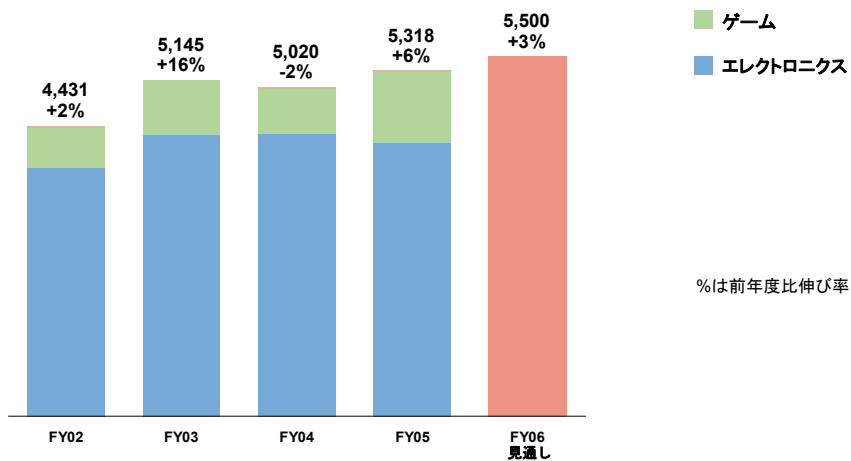
(億円)



- FY06減価償却費および償却費見通しのうち、有形固定資産分は3,400億円(前年度3,105億円)
- 7月時点の見通しから変更なし

FY06 研究開発費見通し

(億円)



- 7月時点の見通しから変更なし

FY06 4-12月期 連結業績

(億円)

	FY05 4-12月期	FY06 4-12月期	前年同期比	前年同期比(LC*)
売上高および営業収入	56,549	62,061	+9.7%	+6%
営業利益	2,783**	1,851***	-33.5%	-62%
税引前利益	3,342	2,077	-37.8%	
持分法による投資利益(純額)	78	663	+749.8%	
当期純利益	1,901	1,939	+2.0%	
1株当り当期純利益(希薄化後)	180.76 円	184.81 円	+2.2%	
構造改革費用****	634	157	-477	

為替変動による業績への影響額

	平均レート	FY05 4-12月期	FY06 4-12月期
売上高および営業収入:	約 +2,185 億円	1 ドル	111 円
営業利益:	約 +782 億円	1 ユーロ	135 円

* LCベース: 円と現地通貨との間に行替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)

** FY05 4-12月期の営業利益には厚生年金基金の代行返上益735億円が含まれる

*** FY06 4-12月期の営業利益にはノートブックコンピュータ用電池パックの回収ならびに自主交換プログラムに関わる費用の引き当て512億円が含まれる

**** 構造改革費用は営業費用に含まれる

23

Sony Corporation Investor Relations

FY06 4-12月期 セグメント情報および関連会社業績

(億円)

連結セグメント		FY05 4-12月期	FY06 4-12月期	前年同期比	前年同期比(LC*)
エレクトロニクス	売上高	39,532	45,230	+14.4%	+10%
	営業利益	885**	2,309***	+161.0%	+80%
ゲーム	売上高	8,063	7,356	-8.8%	-12%
	営業利益(損失)	701	-1,245	-	-
映画	売上高	5,055	6,799	+34.5%	
	営業利益(損失)	-28	98	-	
金融	金融ビジネス収入	5,201	4,651	-10.6%	
	営業利益	1,090**	546	-49.9%	
その他	売上高	3,194	2,782	-12.9%	
	営業利益	295**	270	-8.5%	

* LCベース: 円と現地通貨との間に行替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)

** FY05 4-12月期の営業利益には厚生年金基金の代行返上益が含まれる(エレクトロニクスは 645億円)

*** FY06 4-12月期の営業利益にはノートブックコンピュータ用電池パックの回収ならびに自主交換プログラムに関わる費用の引き当て512億円が含まれる

主要持分法適用会社		4/05 - 12/05	4/06 - 12/06	前年同期比
ソニー・エリクソン (百万ユーロ)	売上高	5,979	8,967	+50%
	税引前利益	444	1,146	+158%
ソニー-BMG (百万ドル)	売上高	3,419	3,261	-5%
	税引前利益	171	174	+2%

ソニー・エリクソンはエリクソン社、ソニー-BMGはベルテルスマン社との間で、ソニーがそれぞれの50%の株式を保有する持分法適用会社です

24

Sony Corporation Investor Relations